



KIRIN

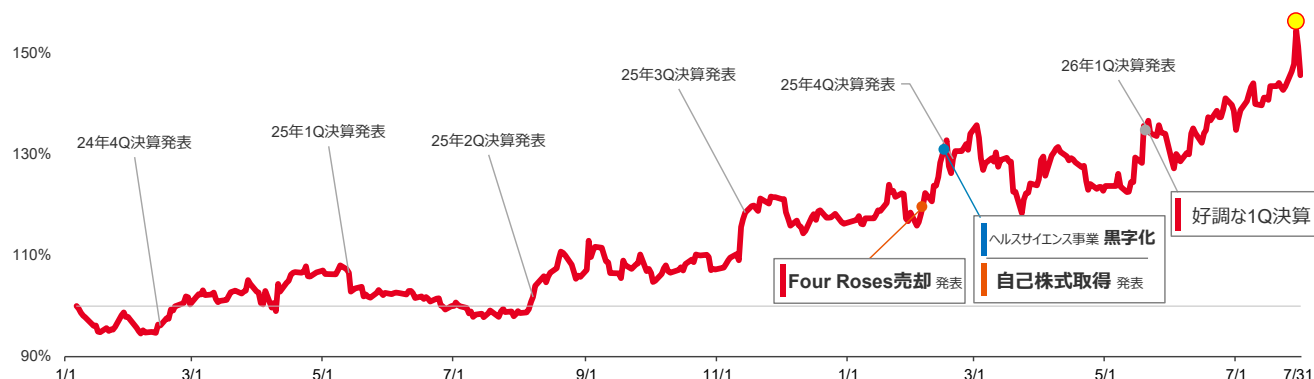
よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリングroup 2026年12月期 第2四半期決算

2026年8月7日

中長期的に外部環境の激しい変化が見込まれる中
**キリングroupの事業ポートフォリオに対する
資本市場からの理解/賛同が得られはじめ、時価総額は上昇基調に**

時価総額の推移（2025年初来）



- 皆様、おはようございます。キリンホールディングスの磯崎です。
- 日頃より、キリングroupの企業活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
- まず私からのご説明に入る前に、7月28日に発生した熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご心をお慰め申し上げます。また、被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。
- それでは、決算に関するご説明を開始いたします。今期に入ってから多くの投資家の皆様と対話をしています。5月にはロンドンを中心に、欧州の投資家の方々と対話をしました。
- その対話を通じて、キリンの事業ポートフォリオに対する理解が進んでいること、更には賛同をいただき始めていることを確認しました。従来とは異なり、当社に対する見方が大きく変わり始めていることを実感しています。また同時に、これまでの様々な改革の手応えを強く感じています。
- 実際に、ロンドンにも拠点を置く世界的に有力な投資家からは、「キリンの事業ポートフォリオに対する資本市場からの見方が180度変わり非常に興味深い」、というコメントをいただきました。
- こうした変化は、昨年ヘルスサイエンス事業が黒字化し、今年の足元の好調な業績により、キリンが描く長期Visionが信頼され始めたことに起因していると考えています。
- このような変化に呼応するように時価総額は上昇を続けており、足元では過去最高に近い水準にまで上昇しています。ただ、決してこの程度で満足はしておりません。戦略の実行度をさらに高め、企業価値のさらなる向上を図ってまいります。
- ここからは社長の南方より、投資家の皆様のご関心の高い点を中心に説明いたします。

- では、南方さん、お願いします。

資本市場の関心が 特に高かった事項



今期の業績予想は変えないのか？



構造改革などBS最適化の進捗は？



ヘルスサイエンス事業の具体的な成長戦略は？



国内酒類の酒税一本化に向けた手応えは？



医薬事業の保有の考え方に変化は？

- おはようございます。キリンホールディングスの南方です。
- 私もこの5月・6月に、欧州と北米にて、投資家の皆様と対話を行いました。大変示唆に富むものが多く、いただいたご意見や声を基に経営でも議論しています。
- その中でも特に関心をいただいているのがこちらに記載の「今期の業績予想」、「BSマネジメントの進捗」、「ヘルスサイエンス事業の成長戦略」、「国内酒類の酒税一本化に向けて」、それから「医薬事業の保有の考え方に変化はあるか」についての大きく5点です。



今期の業績予想は変えないのか？

- 事業利益と親会社所有者利益を**上方修正**する
事業利益：2,350億円 ➡ **2,530億円**、親会社所有者利益：1,560億円 ➡ **1,600億円**
- EPSについては193円から**200円**へ**上方修正**し、ROICは年初目標達成を目指す

*詳細はp.13参照



構造改革などBS最適化の進捗は？

- Four Rosesの売却については4月1日にクロージング
- 協和ファーマケミカルの売却、LionのJames Boag工場の閉鎖などを進行

- まず、今期の業績予想ですが、事業利益を2,350億円から2,530億円へ、親会社所有者利益を1,560億円から1,600億円へ、EPSを193円から200円へそれぞれ上方修正いたします。詳細については、後程、秋枝よりご説明申し上げます。
- 今回の業績予想修正は、これまで推進してきた「酒類」「飲料・ヘルスサイエンス」「医薬」の事業ポートフォリオ経営とそれを支える実行力に裏打ちされたものです。
- ご存じの通り、今期も、中東情勢をはじめとする外部環境の変化が激しく、それによるマイナスの影響を受けています。一方でそうした影響を最小化し、キリングループの業績が安定している要因は大きく二つあります。一つは各事業会社が状況変化に柔軟に対応し、目標達成に向けた戦略を着実に実行していることです。
- もう一つは、Four Rosesや協和ファーマケミカルの売却、LIONの工場再編など、事業構造改革を継続して推進し、BSマネジメントも同時に実行していることです。
- こうした取り組みの成果を踏まえ、通期の事業利益、親会社所有者利益、EPSは上方修正します。今後、これらの目標達成にこだわっていきます。

ヘルスサイエンス事業の具体的な成長戦略は？



* Route to Market

2030年にオーガニック成長で
事業利益**300億円～330億円**を、
2035年はインオーガニック成長を含め
売上収益**5,000億円**
事業利益**750億円**（事業利益率15%）
を達成する

- 次に、ヘルスサイエンス事業の成長戦略についてです。
- これまでお示ししてきた中長期の定量目標を具体的にどのように達成するのか、となりますが、これに関しては、先月開催しましたInvestor Dayでの説明させていただいたとおり、4つの成長ドライバーを置いております。
- 今年の4月に設立しましたKirin Health Science Internationalをハブとしたアジア・オセアニアでのシナジーの創出、強いブランドと顧客基盤を活かした国内外での既存事業の力強い成長、そして、プラズマ乳酸菌やシチコリン等の独自の高付加価値素材の展開、これら3つのドライバーを軸にオーガニック成長を加速します。
- また、将来の更なる成長に向けては、4つ目のドライバーとしてM&Aによるインオーガニックの成長も組み合わせていきます。先週発表したJamieson社の件については、後ほど吉村よりご説明いたします。
- これらによって、まずはJamieson社を含まない既存事業のオーガニック成長で、2030年に売上収益3,000億円、事業利益300億円～330億円の達成を目指します。
- そして、2035年にはインオーガニック成長も合わせて、売上収益5,000億円、事業利益750億円を達成して、ヘルスサイエンス事業をキリングroupの第3の事業の柱へと成長させていきます。
- ヘルスサイエンスに関しては成長ステージであり、実績を積み上げていくことが重要です。今後の進捗と成果について、引き続き、皆様にお示ししてまいります。



国内酒類

国内酒類の酒税一本化に向けた手応えは？

- ＞ 強化する狭義ビールで、一番搾りに加えて、晴れ風とグッドエールが育っている
- ＞ 4つのカテゴリー*とRTDで強いブランドを持つことが強みであり、今後も競争優位に
- ＞ 今後も変わらず、単価向上によるトップラインの維持とコスト最適化により収益性の向上を図る

*プレミアム、スタンダード、エコノミー、機能系の4つのカテゴリー



医薬事業

医薬事業の保有の考え方に変化は？

- ＞ R&Dの基礎研究での協働などヘルスサイエンス事業の成長・競争力強化にとって重要
- ＞ 現在の持分比率で協働したいことはできている

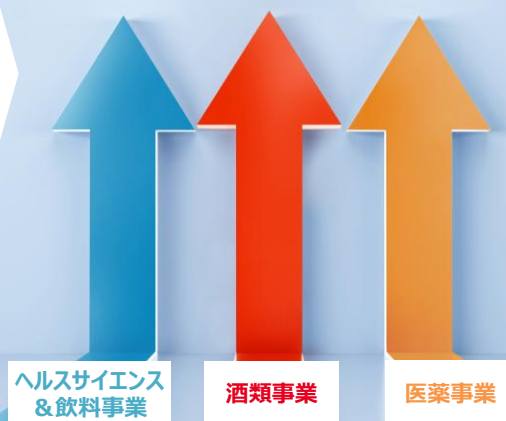
➡ 保有意義と持分比率いずれも従来の考えから変更なし

- 続いて、国内酒類では、この10月に酒税の一本化が控えていますが、それに向けた手応えもよく聞かれたご質問の一つです。
- キリンビールでは、酒税一本化を見据え、強化する狭義ビールカテゴリーのブランドを育ててきました。好調な一番搾りに加え、晴れ風とグッドエールの2つのブランドが着実に育ち、狭義ビールカテゴリーでもしっかりとお客様のご期待に応えていきます。
- またビール化する本麒麟、機能系で長年お客様からご支持いただいている淡麗グリーンラベルや淡麗プラチナダブルなど、エコノミーや機能系カテゴリーでも強いブランドを有しています。
- 特に機能系カテゴリーは機能でご愛飲いただいているお客様も多いことから、酒税改正による需要変動の影響を相対的に受けにくいです。そして、酒税改正でエコノミーユーザーがビールから離れた場合の受け皿となり得るRTDカテゴリーでも氷結という強力なブランドを持つ当社は、酒税一本化後も競争優位なポジションにいますと考えています。
- 酒税改正に関わらず、ビール市場は人口減少等で引き続き縮小が見込まれますが、今後も、ブランド力を高めたり、R&Dの力で高付加価値の商品などを開発することで、トップラインを維持すると同時に、コスト最適化により収益性の向上を図ってまいります。
- 最後に、協和キリンとの関係についてですが、現時点では、従来の考えからの変更はございません。
- 従前より説明申し上げております通り、ヘルスサイエンス事業の成長にとって協和キリンは重要な役割を担っております。
- 例えば、R&Dの最も初期にある基礎研究の段階では、そこで見つけた「種」が医薬品になるか、健康食品になるか、あるいは両方に活用できるのかは国の規制などにより、その時点では必ずしも明確ではありません。かつて医薬品として開発され、健康食品に展開されたシチコリンはそのいい事例です。今後もこのような将来の種を生み出すことは両社にとって意味のあることで、ヘルスサイエンス事業の研究開発力の向上にとっても極めて重要であり、キリングループの競争優位性の源泉となります。
- また、現在の保有割合でこうしたことが実現出来ていることを考慮すると、現時点では保有比

率の変更は考えていません。ヘルスサイエンスへの投資を優先したいと考えています。

将来の不確実性や地政学リスク、人口動態などを見据えた

レジリエンスの高い事業ポートフォリオ経営を行う



- 今後も、変化の激しい外部環境にも対応し得るレジリエンスの高い事業ポートフォリオ経営とそれを支える実行力を強化し、2035年Visionでもお示ししたEPS成長とPER向上により、持続的に企業価値の向上を図ってまいります。
- 同時に、資本効率を重視した経営を行うためのBSマネジメントを更に推進していくことで、ROICの改善も進めてまいります。

キリングroupは、**生活者のこころと体の健康の未来を創造するgroup**を目指す

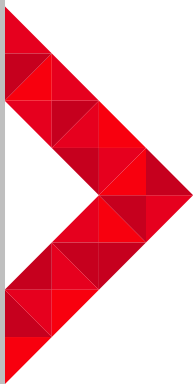
**人と技術の力で
イノベーションを起こし続けるCSV先進企業として
世界をもっと元気に**

© Kirin Holdings Company, Limited

よろこびがつなく世界へ
KIRIN

- 最後になりますが、我々キリングroupの長期ビジョンについてお話しします。
- 2035年には、世界の皆様から「キリングgroupは生活者のこころと体の健康の未来を創造しているgroupだ」と認識いただける存在になることを目指します。
- このことがgroupの競争力の強化と利益成長につながり、企業価値最大化が実現できると確信しています。
- キリングgroupのさらなる成長に、ぜひご期待ください。
- 私からのご説明は以上です。





2026年 第2四半期決算概要

Joy brings us together



- 皆様、おはようございます。麒麟ホールディングスの秋枝です。
- 私からは、決算概要についてご説明いたします。

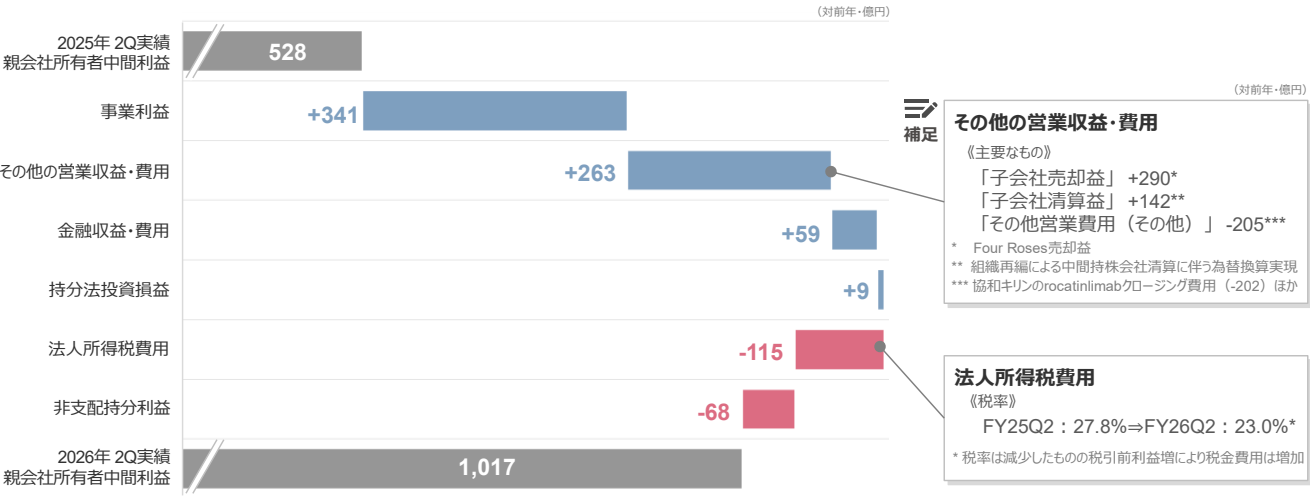
(億円)	25年2Q 実績	26年2Q 実績	増減	%
売上収益	11,363	12,179	816	7.2%
事業利益*	942	1,283	341	36.1%
税引前中間利益	838	1,509	671	80.1%
親会社の所有者に帰属する 中間利益	528	1,017	489	92.5%
期中平均株式数 (百万株)	810	805	-5	-0.6%
EPS (円)	65	126	61	93.8%

- 親会社所有者利益は、事業利益の増加やFour Rosesの売却益の計上などにより、大幅に増益
- EPSは、親会社所有者利益の増加に伴って向上しており、計画に対しても順調に進捗
- 事業利益は、Four Roses売却に伴う利益剥落の影響があったものの、引き続き、各事業が順調に進捗していることにより増加

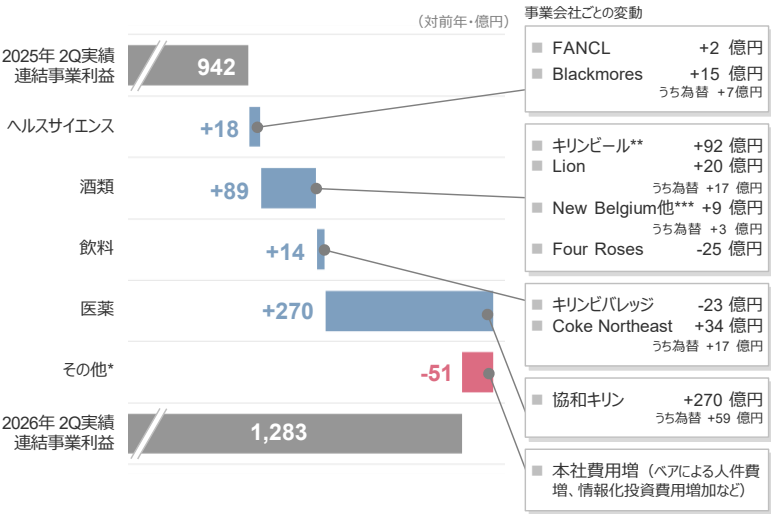
* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出

- 連結の売上収益と事業利益は、前年同期比で増収増益となりました。
- 親会社所有者利益に関しては、事業利益の増加やFour Roses売却益の計上などによって大幅に増加しています。
- また、これに伴いEPSも前年を上回って推移しており、計画に対しても順調に推移しています。

2026年度 2Q実績：親会社の所有者に帰属する中間利益増減



- 親会社所有者利益の主な増益要因は、事業利益の増加と事業ポートフォリオの見直し等に伴うその他営業収益の増加です。
- なお、その他の営業費用には、協和キリンのrocatinlimab開発中止に伴うクローゼング費用も計上しております。



* 「その他」は、「その他」と「全社費用/セグメント間取引消去」との合算値
** 麒麟ビール単体の他、台湾麒麟等の連結構成会社を含む
*** U.S.ワインを含む

© Kirin Holdings Company, Limited

トピックス

全般

- 引き続き、各事業が順調に進捗していることに加え、為替の後押しもあり、大幅に増益
- 中東情勢に伴う影響を受けている事業があるものの、コスト削減やコストコントロール等を行い、影響の最小化に努めている

ヘルスサイエンス事業

- 各事業が堅調に推移しており、計画に対しても概ねインラインで進捗している

酒類事業

- 国内外ともに、引き続き、競合によるマーケティング投資強化の攻勢を受けながらも販売は順調に進捗

医薬事業

- 技術収入や北米におけるCrysvitaの需要増、為替の影響に伴う売上総利益の増加に加えて、研究開発費の減少等が大幅増益に寄与

- 事業利益は、1Qに続き、各事業が順調であることと、為替の後押しもあり大幅増益で進捗しています。
- 中東情勢に伴い原材料や燃料費高騰の影響を受けている事業もありますが、コストコントロール等を行うことで、影響の最小化に努めています。
- 各事業を見ると、事業利益の増益を牽引したのは医薬事業です。技術収入や北米でのCrysvitaの需要増などに伴う売上総利益の増加に加えて、研究開発費の減少が寄与しました。
- ヘルスサイエンス事業についても増益で、計画に対して概ねインラインで進捗しております。
- 酒類事業はFour Roses除外のマイナス影響がありつつも、展開エリアそれぞれの厳しい競争環境下で販売が順調に進捗しており、増益を確保しています。

2026年度 業績予想修正

- ▶ 事業利益、親会社所有者利益及びEPSを上方修正し、ROICに関しては年初計画の達成を目指す
- ▶ 中東情勢の影響は、グループ全体で今期に100億円程度を見込むが、各事業において価格改定、コスト削減や費用コントロール等を行い、影響の低減を図ることで事業利益への影響を最小化する（来期の原材料等のコストインパクトは対今期で増加を見込む）

通期業績予想

(億円)	25年通期 (実績)	26年通期 (修正あり)	対前年 増減	%	26年通期 (従来予想)	修正額	%
売上収益	24,334	24,800	466	1.9%	24,800	—	—
事業利益	2,518	2,530	12	0.5%	2,350	180	7.7%
税引前利益	2,379	2,590	211	8.9%	2,580	10	0.4%
親会社の所有者 当期利益	1,475	1,600	125	8.4%	1,560	40	2.6%

※豪ドルの通期为替予想レートを次のとおり修正
豪ドル95.00円⇒100.00円

定量目標 / 通期予想配当金（一株当たり）

	25年通期 (実績)	26年通期 (修正あり)	対前年 増減	26年通期 (従来予想)	修正額
ROIC	7.6%	7.7%	—	7.7%	—
EPS	182円	200円	18円	193円	7円
年間配当金	74円	76円	2円	76円	—

ポイント

売上収益

- ▶ Four Roses売却に伴う連結除外によるマイナスや豪ドルの為替予想レート修正によるプラスはあり、また、各事業に多少の上下はあるが、連結・個別業績ともに、修正するほどの大きな変動はない

事業利益

- ▶ 協和キリンのrocatinlimab開発中止に伴う研究開発費等の減少によるプラス（約300億円）と豪ドルの為替予想レート修正によるプラス、Four Roses売却に伴う連結除外によるマイナス（約80億円）を反映
- ▶ 中東情勢に伴うマイナス影響については各事業で最小化に努めるが一定程度リスクを反映

親会社所有者当期利益

- ▶ 事業利益の上方修正に伴う各段階利益の上方修正に伴い、親会社所有者利益は微増
- ▶ 修正後の税引前利益には、主に次の損益要因を織り込み済み
 - Four Roses売却益
 - 構造改革に伴う収益/費用及びrocatinlimab開発中止に伴うクロージング費用
 - マクロ環境に伴う持分法投資損益の悪化

- 1Qでは中東情勢による今期業績に与える影響が見えにくかったため、通期の業績予想修正を行いませんでしたが、中東情勢に伴う今期への影響が見えてきましたので、業績予想を修正することといたしました。
- あらかじめお断りしますが、先週発表しましたカナダの健康食品会社Jamieson社の株式取得についてはまだ手続きが完了していないため、今回の業績予想の修正には織り込んでおりません。もっとも、無事にクロージングを迎えた場合でも、4Q以降になるため、今期の業績に与える影響は大きくはない見込みです。
- さて、業績予想の修正内容のご説明に戻ります。
- まず、売上収益に関しては修正いたしません。Four Roses除外や豪ドルの為替予想レートの修正などに伴う細かい変動はありますが、連結業績に与える影響に照らして据え置きます。
- 事業利益に関しては上方修正いたします。協和キリンの研究開発費減少や豪ドルの為替予想レートの見直しに伴うプラス影響と、Four Roses除外や中東情勢に伴うマイナス影響を反映しています。
- 親会社所有者当期利益についても、事業利益の上方修正に伴う段階利益の上方修正などに伴い、修正いたします。なお、税引前利益には、資料の右下に記載の各損益を織り込んでいます。
- 最後に、EPSですが、親会社所有者利益の上方修正に加えて、現在実施している自己株式取得の影響も踏まえて上方修正いたします。
- 私からのご説明は以上となります。
- ご清聴ありがとうございました。

Environment

Scope3移行計画の実行を加速

- ▶ SBTイニシアチブ（以下 SBTi）による「SBTネットゼロ認定」を、2026年3月に再取得し、あわせて「FLAG目標」を新設
- ▶ これは、キリングループの事業ポートフォリオ変革や、外部環境の変化に伴うSBTiガイドラインの改定を踏まえたもの

SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



詳細はこちら

「シャトー・メルシャン 天狗沢ヴィンヤード」が自然共生サイトに認定

- ▶ 農研機構との共同研究の成果の一部である「天狗沢ヴィンヤード」の生態系調査結果を自然共生サイト申請に活用
- ▶ 認定は、「シャトー・メルシャン 梶子ヴィンヤード」、「シャトー・メルシャン 城の平ヴィンヤード」に続いて3事例目



詳細はこちら

Social

デジタルを活用した飲食業界の課題解決に向けた取り組み始動

- ▶ キリンビールは、飲食業界の課題解決と活性化を目的に飲食店の開業や運営をデジタルで支援する新たな取り組みを開始
- ▶ 第1弾として、新規開業者向けコミュニティサイト「CHEERS FRONTIER（チアーズフロンティア）」を6月に開設

CHEERS FRONTIER
Supported by KIRIN

詳細はこちら

「キリン つよいぞ！ ムテキッズ」が施設給食に初導入

- ▶ 子どもの健やかな成長を応援する「プラズマ乳酸菌」入り子ども健康飲料「キリン つよいぞ！ ムテキッズ」を4月に施設給食に初導入
- ▶ 毎日の学校生活の中で子どもたち自身が体調管理を意識する習慣を取り入れやすい点や、楽しみながら続けられる点が評価



詳細はこちら

外部評価

CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」において8年連続で最高評価を獲得



詳細はこちら

経済産業省と東京証券取引所が選定する「DX銘柄」に選出



詳細はこちら

経済産業省と日本健康会議による「健康経営優良法人2026」の認定を取得



詳細はこちら

開示媒体

統合レポート
2026

詳細はこちら

環境報告書
2026

詳細はこちら

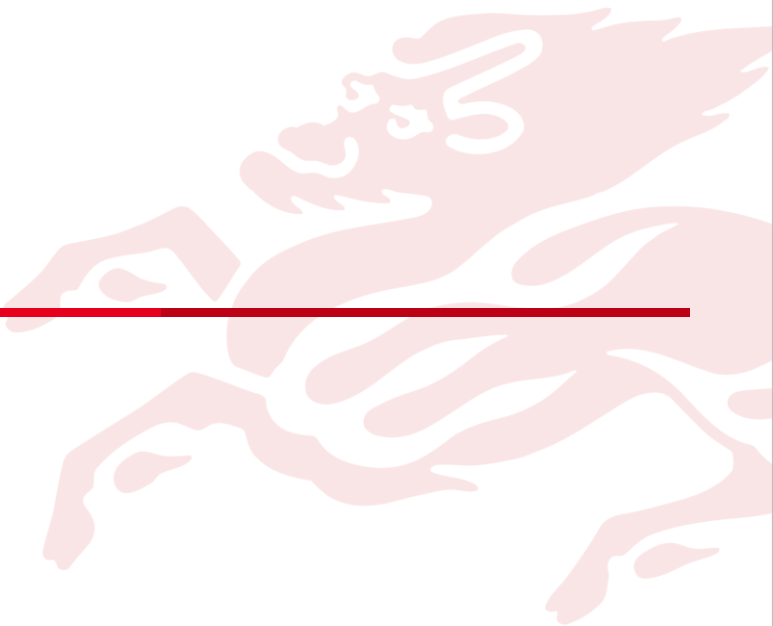
Coke Northeast
SUSTAINABILITY
REPORT

詳細はこちら



資料編

Joy brings us together



2026年度 2Q実績：セグメント別 売上収益



(億円)		2025年 2Q実績	2026年 2Q実績	増減	%
連結 売上収益		11,363	12,179	816	7.2%
酒類		4,926	5,178	252	5.1%
	麒麟ビール*	3,241	3,330	89	2.7%
	うち麒麟ビール単体	3,014	3,029	15	0.5%
	Lion	870	1,041	170	19.6%
	New Belgium他**	442	501	59	13.5%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	373	307	-67	-17.9%
飲料		2,718	2,949	231	8.5%
	麒麟ビバレッジ	1,253	1,218	-35	-2.8%
	Coke Northeast	1,423	1,682	258	18.2%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	42	49	7	16.7%
医薬		2,305	2,635	330	14.3%
	協和麒麟	2,307	2,636	330	14.3%
	セグメント間取引消去	-2	-1	0	—
ヘルスサイエンス		1,272	1,288	16	1.3%
	FANCL	544	620	76	14.0%
	Blackmores	329	394	64	19.5%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	399	275	-124	-31.1%
その他		141	128	-13	-9.3%

* 麒麟ビール単体の他、台湾麒麟等の連結構成会社を含む
** U.S.ワインを含む

2026年度 2Q実績：セグメント別 事業利益



(億円)		2025年 2Q実績	2026年 2Q実績	増減	%
連結 事業利益		942	1,283	341	36.1%
酒類		532	621	89	16.8%
	麒麟ビール*	348	440	92	26.3%
	うち麒麟ビール単体	318	381	64	20.1%
	Lion	86	106	20	22.6%
	New Belgium他**	40	49	9	23.2%
	その他	57	26	-31	-54.5%
飲料		295	310	14	4.8%
	麒麟ビバレッジ	75	52	-23	-30.2%
	Coke Northeast	215	249	34	15.8%
	その他	6	9	3	44.7%
医薬		335	605	270	80.7%
	協和麒麟	335	605	270	80.7%
ヘルスサイエンス		86	104	18	20.8%
	FANCL	47	49	2	4.6%
	Blackmores	29	44	15	51.2%
	その他	10	11	1	8.5%
	その他	-6	-15	-9	—
全社費用・セグメント間取引消去		-300	-342	-42	—

* 麒麟ビール単体の他、台湾麒麟等の連結構成会社を含む
** U.S.ワインを含む

FANCL				
(億円)	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%
売上収益*	544	620	76	14.0%
化粧品(スキンケア)	304	355	51	16.9%
サプリメント	209	235	26	12.6%
事業利益** [事業利益率]	47 8.7%	49 8.0%	2	4.6%
地域別金額 対前年増減	26年 2Q実績			
国内	1.8%			
海外	116.2%			

- 売上収益
- 化粧品(スキンケア)事業
- 海外での自社販売体制移行に伴う収益の取り込みや、国内でのブランド強化施策の効果等により増収。
- サプリメント事業
- 海外での自社販売体制移行に伴う収益の取り込みや、国内での新商品投入効果により増収となった。
- 事業利益
- ブランド強化のための広告投資を行いつつも、全体での売上伸長が寄与し増益。

Blackmores				
豪ドルベース (million AUD)	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%
売上収益*	352	353	1	0.3%
豪州・NZ	159	150	-9	-5.4%
東南アジア・韓国	93	98	5	5.1%
中国	100	105	5	4.9%
事業利益** [事業利益率]	31 8.8%	39 11.1%	8	27.0%

- 売上収益
- 豪州での減収があった一方、中国・東南アジアでの堅調な成長により、売上収益はほぼ前年並み。
- 豪州・NZ
- 昨年8月に売却したペット向けヘルスケア事業の売上剥落に加え、風邪・インフルエンザ関連需要の立ち上がりの遅れが影響し、減収。
- 東南アジア・韓国
- インドネシア・マレーシア・タイでの新商品投入やチャネル拡大の効果により、エリア全体で増収。
- 中国
- Club Channelでの取り組みに加え、越境ECチャネルが堅調に推移したことで増収。
- 事業利益
- 継続的なコスト削減の取り組みによる売上総利益の増加により増益。

連結（億円）	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%
売上収益	3,241	3,330	89	2.7%
事業利益	348	440	92	26.3%

- 連結での実績は、増収増益。
- 海外事業は、一番搾りの販売が好調な中国が全体を牽引した結果、増収増益。

単体（億円）	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%
売上収益	3,014	3,029	15	0.5%
ビール類計	2,282	2,230	-52	-2.3%
RTD	526	545	19	3.6%
ノンアルコール飲料	42	62	21	49.8%
酒税抜売上収益	1,858	1,919	61	3.3%
事業利益	318	381	64	20.1%
〔事業利益率〕*	17.1%	19.9%		

* 対酒税抜売上収益

25年2Q 事業利益	318	主な内容
酒類等 限界利益増	60	ビール類計 △30億 ビール類以外計 +20億 価格改定・品種構成差異等 +70億
原材料費増	-15	アルミ缶高騰等
販売費減	36	マーケティング差等
その他費用増	-17	修繕費・減価償却費増 他
計	64	
26年2Q 事業利益	381	

© Kirin Holdings Company, Limited

（千KL）	25年 2Q実績	26年 2Q実績	%	市場 （カテゴリー）
一番搾りブランド計	177	164	-7.0%	+0%
一番搾り計	138	136	-1.8%	+0%
晴れ風	30	29	-1.0%	+0%
グッドエール	—	15	—	+0%
淡麗グリーンラベル	61	57	-5.8%	-8%**
本麒麟	74	66	-11.9%	-8%**
氷結ブランド計	137	145	5.4%	-1%

** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②） 合算のエコノミーカテゴリー前年比を記載

- 売上収益
- 「一番搾り計」が堅調に推移したほか、発売開始以降計画を上回り好調な「グッドエール」が増分で寄与。また、「氷結ブランド計」は「氷結無糖」シリーズを中心に好調に推移し、市場を上回った。
- 売上収益は、主力ブランドの堅調な販売および前年4月の価格改定影響の反動増もあり、前年並み。
- 事業利益
- 価格改定効果に加え、10月の酒税一本化に向け、マーケティングを下期にアロケーションした影響もあり、大幅増益となった。

Lion

豪ドルベース (million AUD)

	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%
売上収益	931	934	4	0.4%
事業利益 [事業利益率]	92 9.9%	95 10.2%	3	2.9%

通期予想レート：100.00円 (豪ドル) / 26年2Q実績：111.37円(豪ドル)
25年2Q実績：93.52円(豪ドル)

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

25年2Q 事業利益	92
豪州・NZ	数量 1
	その他 1
26年2Q 事業利益	95

販売数量前年比
豪州のみ +1.5%

▶ 豪州では、高価格帯の「Stone & Wood」、機能系の「Hahn」などの差別化できるブランドが数量成長を牽引し、市場を上回った。

▶ 豪州の販売単価は、価格改定・RGMに加え、業務用好調によるチャネルミックス改善も寄与し、White Claw終売影響を含めても前年を上回った。

▶ 結果として売上収益は、NZの為替差の影響を受けたものの、Lion全体で前年並み。

▶ 価格改定効果・高価格帯商品ならびに業務用比率上昇によるミックス改善に加え、固定費削減が、中東情勢に伴う物流・燃料費上昇を上回り増益。

▶ 小売企業への配送に対しサーチャージを導入したことにより、燃料費増加影響を抑制した。

New Belgium他*

米ドルベース (million USD)

	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%
売上収益	299	316	17	5.7%
事業利益 [事業利益率]	27 9.1%	31 9.9%	4	14.8%

通期予想レート：150.00円 (米ドル) / 26年2Q実績：158.59円(米ドル)
25年2Q実績：147.48円(米ドル)

▶ 販売数量は、「Voodoo Ranger」ブランドにおいて既存主力品が引き続き成長したことに加え、新商品のG Forceも上乗せで寄与する健全な成長が継続。また、「KIRIN Ichiban」の取扱店舗拡大も販売増加に貢献した。

▶ 加えて、価格改定効果による単価上昇も寄与し、売上収益は増収となった。

▶ 中東情勢に伴うアルミ・燃料のコストアップが発現し始めたものの、主要ブランドの数量増に加え、価格改定を主要因とする粗利増により増益となった。

* U.S.ワインを含む



キリンビバレッジ

(億円)

	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%
売上収益	1,253	1,218	-35	-2.8%
ヘルスサイエンス飲料	198	193	-5	-2.1%
事業利益	75	52	-23	-30.2%
〔事業利益率〕	5.9%	4.3%		

売上収益

価格改定による単価上昇があった一方、同影響に伴う数量減ならびに大型PETの戦略的な販売抑制等により、減収。

事業利益

価格改定による増益効果がありつつも、主に数量減、原材料・加工費単価上昇、午後の紅茶40周年、プラズマ新商品等の広告販促費投下もあり、減益。

トピックス

4月に「iMUSE フルーツフレッシュ」を発売。季節を問わない通年の免疫ケア需要を取り込み、収益性改善につなげる。



Coke Northeast

米ドルベース (million USD)	25年 2Q実績	26年 2Q実績	増減	%	
売上収益	965	1,060	95	9.9%	売上 収益
事業利益	145	157	11	7.7%	
〔事業利益率〕	15.1%	14.8%			事業 利益
通期予想レート：150.00円（米ドル） / 26年2Q実績：158.59円(米ドル) 25年2Q実績：147.48円(米ドル)					

➤ FIFAワールドカップや米国建国250周年といったイベント需要の着実な取り込みによる数量伸長と価格改定効果により増収。

➤ 中東情勢に伴う燃料費の高騰や一部資材のコストアップの影響を受けたが、トップライン伸長とオペレーションコスト抑制により増益。



(億円)	25年2Q実績	26年2Q実績	増減	%
売上収益	2,307	2,636	330	14.3%
事業利益	335	605	270	80.7%
[事業利益率]	14.5%	23.0%		

(億円)	Crysvita クリスビータ		Poteligeo ポテリジオ	
	25年2Q実績	26年2Q実績	25年2Q実績	26年2Q実績
日本	61	70	7	8
北米	640	751	160	193
EMEA	280	344	49	57
その他	17	22	1	1
合計	998	1,188	216	259

協和キリン 業績予想修正

(億円)	25年実績	26年修正 予想	増減	%	26年 従来予想	修正額
売上収益	4,968	5,200	232	5%	5,200	0
売上総利益	3,689	3,880	191	5%	3,910	-30
販売費及び一般管理費	1,579	1,630	51	3%	1,690	-60
研究開発費	1,012	950	-62	-6%	1,220	-270
コア営業利益	1,098	1,300	202	18%	1,000	300
事業利益*	1,023	1,190	167	16%	890	300
当期利益	670	750	80	12%	750	0

* キリンホールディングス連結取り込み

- 協和キリンは、第一四半期決算（5/7公表）にて業績修正を実施。
- コア営業利益をrocatinlimabの開発中止に伴う販管費・研究開発費の減少により、上方修正。
- 一方、同開発中止に伴うクロージング費用の見積もりに加え、減損損失の影響によりその他営業費用が増加予定のため、当期利益は年初計画を据え置き。
- キリンホールディングスにおいては、当該業績予想修正を当決算のタイミングにて取り込み。

- 売上収益

➤ Crysvitaの需要拡大、Fasenraの成長および1Qにrocatinlimabのアップフロントを一括計上したことによる技術収入の増加に加えて、為替の追い風により増収。
- 事業利益

➤ 売上収益の増加に伴う売上総利益の拡大に加え、rocatinlimab開発中止に伴う研究開発費の減少により増益。

2026年8月3日現在

	開発中の疾患*1	承認予定年*2	開発ステータス	市場規模*3	患者さんの数*4
ziftomenib	急性骨髄性白血病 (NPM1-m or KMT2A-r, 新規診断)	TBD	P3 (グローバル)	★★★★	20K
KKK8398 infigratinib	軟骨無形成症	TBD	P3 (日本)	★	生児出生の 2万人に1人
	軟骨低形成症	TBD	P3 (日本) 準備中	★	生児出生の 3.3万人に1人
OTL-200	異性性白質ジストロフィー	TBD	P3 (日本) 準備中	★	生児出生の 10万人に1人*6
KKK4951 tivozanib 点眼	新生血管型加齢黄斑変性	TBD	P2 (日・米)	★★★★★	2672K
	糖尿病黄斑浮腫	TBD	P2 (日・米)	★★★★	2219K
OTL-203	Δコ多糖症I型 (Hurler症候群)	2029/2030	ビボタル試験*5 (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人*6
OTL-201	Δコ多糖症IIIA型 (Sanfilippo症候群A型)	TBD	POC試験*7	★	生児出生の 10万人に1人以下

*1 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。*2 最初に承認が期待される年です。*3 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に協和キリンが独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★: 500億円未満、★★: 500億円以上-1000億円未満、★★★: 1000億円以上-5000億円未満、★★★★: 5000億円以上-1兆円未満、★★★★★: 1兆円以上 *4 協和キリン独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。*5 P3試験相当。*6 「10万人に1人」はMPS-I全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの60%になります。*7 P1/2試験相当。

- 価格改定による単価上昇により売上高は前年を上回ったものの、一時的な費用の増加や中東情勢の影響により営業利益は前年を下回った。
- 配当金については、普通配当のほか、フィリピンの会社法に基づく約44億円の臨時配当が実施された。

(百万ペソ)	24年10月- 25年3月	25年10月- 26年3月	増減 %
売上高*	78,439	81,446	3.8%
営業利益*	18,204	16,885	-7.2%
営業利益率	23.2%	20.7%	-2.5%
減価償却費及び償却費他*	3,979	5,086	27.8%
EBITDA (営業利益 + 減価償却費及び償却費他)	22,183	21,971	-1.0%

* 現地開示ベース（キリンホールディングス 2026年度決算への取り込み期間：2025年10月～2026年9月）
出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights, Quarterly Reports

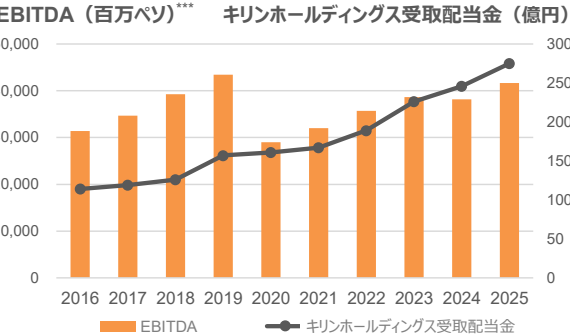
持分法による連結取込み及びキリンホールディングス受取配当金

(億円)	24年10月- 25年3月	25年10月- 26年3月	増減 %
当期利益 (SMB)	362	371	2.5%
連結取込	175	179	1.8%
配当金	134	185	38.0%
1株当たり配当金（ペソ）	0.68	0.94**	37.8%

為替レート：1ペソ = 2.66円（前年同期：2.65円）
（キリンホールディングス 2026年度決算への取り込み期間：2025年10月～2026年3月）
配当金についてはキャッシュインベースで計上
** 臨時配当込み

© Kirin Holdings Company, Limited

EBITDAと受取配当金の推移



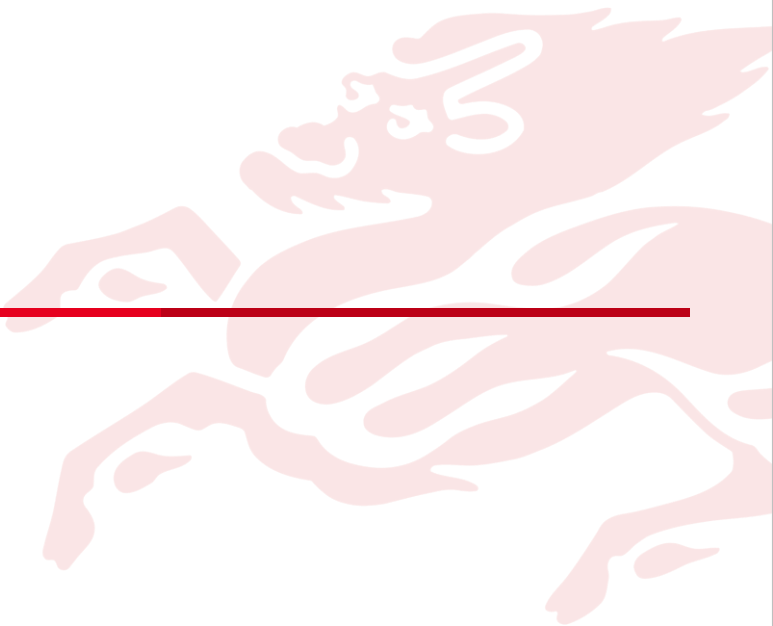
- フィリピンの2026年GDP予測は約5%****
- 2027年にかけても、内需に支えられながら、同程度の成長率で推移すると予測****
- San Miguel Breweryのフィリピンでの市場シェアは9割を超える

*** 現地開示ベース（1月～12月） **** 世界銀行予測 24



Appendix

Joy brings us together



2026年度 2Q実績：連結財政状態計算書サマリー



単位：億円	25年4Q 実績	26年2Q 実績	増減額	増減内容
非流動資産	24,231	24,338	107	
有形固定資産	7,390	7,390	0	
のれん	5,333	5,496	163	
無形資産	6,947	6,898	-49	
持分法で会計処理されている投資	2,288	2,336	48	
その他	2,274	2,218	-56	
流動資産	10,709	9,675	-1,034	
棚卸資産	3,484	2,998	-486	
営業債権及びその他の債権	5,357	4,283	-1,074	● 前年度末が休日による減少 他
現金及び現金同等物	1,253	1,681	428	
その他	615	713	98	
資産合計	34,940	34,013	-928	
資本	15,951	16,807	855	
親会社所有者帰属持分	12,870	13,620	750	● 中間利益による増加 他
非支配持分	3,082	3,187	105	
非流動負債	11,199	10,685	-514	
社債及び借入金	8,424	8,026	-399	
その他	2,775	2,659	-116	
流動負債	7,790	6,521	-1,269	
社債及び借入金	810	410	-400	
営業債務及びその他の債務	3,815	3,360	-455	
その他	3,165	2,751	-414	
負債合計	18,989	17,206	-1,783	
資本負債合計	34,940	34,013	-928	

© Kirin Holdings Company, Limited

- ▶ **資産合計**：前年度末が休日であったこと等による営業債権及びその他の債権の減少等により、前年度末に比べ928億円減少し、3兆4,013億円となった。
- ▶ **資本合計**：中間利益の計上に加え、為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の増加により、前年度末に比べ855億円増加し、1兆6,807億円となった。
- ▶ **負債合計**：社債及び借入金（短期）の償還・返済に加え、前年度末が休日であったこと等による営業債務及びその他の債務、未払酒税の減少により、前年度末に比べ1,783億円減少して1兆7,206億円となった。

2026年度 2Q実績：連結損益計算書サマリー



1 損益計算書サマリー

	25年 2Q実績	26年 2Q実績	対前年増減	
単位：億円				
売上収益	11,363	12,179	816	7.2%
売上総利益	5,324	5,927	604	11.3%
販売費及び一般管理費	4,381	4,644	263	6.0%
事業利益	942	1,283	341	36.1%
その他の営業収益	21	450	429	—
その他の営業費用	277	443	166	60.2%
営業利益	687	1,290	603	87.8%
金融収益	46	126	79	170.2%
金融費用	90	110	20	22.7%
持分法による投資利益	194	203	9	4.7%
税引前中間利益	838	1,509	671	80.1%
法人所得税費用	233	348	115	49.2%
中間利益	605	1,161	556	92.0%
親会社の所有者	528	1,017	489	92.5%
非支配持分	76	144	68	88.5%

© Kirin Holdings Company, Limited

2 主要在外会社損益の為替換算レート

	25年 2Q実績	26年 2Q実績
単位：円		
Lion・Blackmores(豪ドル)	93.52	111.37
Coke Northeast・New Belgium他(米ドル)	147.48	158.59

3 主要在外会社損益の取込期間

	25年2Q	26年2Q
San Miguel Brewery	2024年10月 ～2025年3月	2025年10月 ～2026年3月

2026年度 2Q実績：利益増減明細



1 その他の営業収益・その他の営業費用

	25年 2Q実績	26年 2Q実績	対前年 増減
単位：億円			
その他の営業収益	21	450	429
有形固定資産及び無形資産売却益	5	1	-4
子会社売却益	-	290	290
子会社清算益	-	142	142
その他	17	18	1
その他の営業費用	277	443	166
減損損失	7	94	88
事業構造改善費用	182	43	-138
有形固定資産及び無形資産除売却損	11	24	12
その他	77	282	205

2 金融収益・金融費用・持分法による投資利益 等

	25年 2Q実績	26年 2Q実績	対前年 増減
単位：億円			
金融収益	46	126	79
受取利息	31	62	31
受取配当金	10	5	-5
金融商品評価益	1	54	53
その他	5	4	-0
金融費用	90	110	20
支払利息	49	67	18
為替差損(純額)	23	28	5
その他	18	15	-3
持分法による投資利益	194	203	9
San Miguel Brewery	175	179	3
その他	18	24	6

2026年度 2Q実績：指標等



1 指標等（前年同期比）

	■ 前年同期比			
	25年 2Q実績	26年 2Q実績	対前年増減	
EPS	65円	126円	61円	93.7%
売上収益(酒税抜き)（億円）	10,075	10,938	864	8.6%
事業利益率(対酒税抜き)	9.4%	11.7%		
グロスDEレシオ	0.91倍	0.62倍		

	■ 前年同期比			
	25年 4Q実績	26年 2Q実績		
ROIC*	7.6%	—		
ROE*	12.0%	—		
グロスDEレシオ	0.72	0.62		
ネットDebt／EBITDA*	2.39	—		
PBR(株価純資産倍率)	1.5	1.6		

- ROIC：利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均)にて算出
- ROE：親会社の所有者に帰属する当期利益／自己資本（前当期平均）にて算出
- PBR：期末株価終値／（親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数（自己株式除く））にて算出

➤ **グロスDEレシオ**：有利子負債が8.6%減少した一方、親会社の所有者に帰属する持分が5.8%の増加となったため、前年度末より低下した。

➤ **PBR**：期末株価終値が19.7%上昇し、親会社の所有者に帰属する持分も7.6%増加したことから、前年度末並みとなった。

*ROIC・ROE・ネットDebt／EBITDAは4Qのみ開示

2026年度 業績：連結キャッシュ・フロー計算書サマリー



	25年 2Q実績	26年 2Q実績	対前年増減
単位：億円			
営業活動によるキャッシュ・フロー	673	1,373	701
税引前中間利益	838	1,509	671
減価償却費及び償却費	501	544	44
その他	-666	-679	-14
投資活動によるキャッシュ・フロー	-616	537	1,152
有形固定資産及び無形資産の取得	-722	-653	70
その他	107	1,189	1,082
財務活動によるキャッシュ・フロー	358	-1,625	-1,983
有利子負債の増減額	1,631	-800	-2,431
配当金の支払額	-357	-378	-21
その他	-915	-447	469
換算差額	-39	142	182
現金及び現金同等物の増減額	376	428	52
会計方針の変更による影響額*	-107	－	107
売却目的で保有する資産への振替に伴う 現金及び現金同等物の増減額	-131	－	131
フリーキャッシュフロー	57	1,910	1,853

© Kirin Holdings Company, Limited

- ▶ **営業活動CF**：前年同期に比べ701億円増加の1,373億円の収入となった。前年同期に比べ運転資金の流入が726億円増加した一方、法人所得税の支払額は77億円増加した。
- ▶ **投資活動CF**：537億円の収入（前年同期は616億円の支出）となった。有形固定資産及び無形資産の取得については前年同期に比べ70億円減少の653億円を支出、また、投資の取得により25億円を支出した。一方、子会社持分の譲渡により1,145億円の収入があった。
- ▶ **財務活動CF**：1,625億円の支出（前年同期は358億円の収入）となった。短期借入金の増加により10億円の収入があった。一方、社債の償還により400億円、配当金の支払により378億円、自己株式の取得により346億円、長期借入金の返済により250億円、コマーシャル・ペーパーの減少により160億円の支出があった。

* 現金及び現金同等物の期首残高を減少させており、「現金及び現金同等物の増減額」に含めていない

2026年度 業績：セグメント別情報



2026年中間期実績

	酒類	飲料	医薬	ヘルス サイエンス	その他	調整額	合計
単位：億円							
事業利益	621	310	605	104	-15	-342	1,283
減価償却費及び償却費	123	66	132	68	10	43	442
有形固定資産及び 無形資産の取得	170	168	221	49	25	21	653

2025年中間期実績

	酒類	飲料	医薬	ヘルス サイエンス	その他	調整額	合計
単位：億円							
事業利益	532	295	335	86	-6	-300	942
減価償却費及び償却費	137	65	102	63	5	35	407
有形固定資産及び 無形資産の取得	205	104	308	40	73	-7	722

*(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いている。
© Kirin Holdings Company, Limited

2026年度 業績予想修正：連結損益計算書



期央：主要在外会社損益の為替換算レート

単位：円	26年年初 (従来予想)	26年通期 (修正あり)
Lion・Blackmores(豪ドル)	95.00	100.00
Coke Northeast・New Belgium他(米ドル)	150.00	150.00

単位：億円

	25年通期 (実績)	26年通期 (修正あり)	対前年 増減	%	26年通期 (従来予想)	修正額	%
売上収益	24,334	24,800	466	1.9%	24,800	—	—
事業利益	2,518	2,530	12	0.5%	2,350	180	7.7%
その他の営業収益	65	530	465	715.7%	62	468	758.4%
その他の営業費用	486	760	274	56.4%	302	458	151.9%
営業利益	2,097	2,300	203	9.7%	2,110	190	9.0%
金融収益	107	170	63	59.3%	268	-98	-36.7%
金融費用	183	180	-3	-1.8%	140	40	28.8%
持分法投資損益	358	300	-58	-16.2%	341	-41	-12.1%
税引前利益	2,379	2,590	211	8.9%	2,580	10	0.4%
法人所得税費用	597	650	53	8.9%	680	-30	-4.4%
当期利益	1,782	1,940	158	8.9%	1,900	40	2.1%
親会社の所有者 当期利益	1,475	1,600	125	8.4%	1,560	40	2.6%
非支配持分利益	306	340	34	11.0%	340	—	—

© Kirin Holdings Company, Limited

2026年度 業績予想修正：指標等



単位：億円

	25年 実績	26年 修正予想	増減	%	2026年 従来予想	修正額	%
売上収益（酒税抜き）	21,547	22,070	523	2.4%	22,070	—	—
事業利益率（酒税抜き）	11.7%	11.5%			10.6%		
	25年 実績	26年 修正予想	増減		2026年 従来予想	修正額	
ROIC	7.6%	7.7%	—		7.7%	—	
EPS	182円	200円	18円		193円	7円	
年間配当金（1株当たり）	74円	76円	2円		76円	—	
ROE	12.0%	12.0%	—		11.7%	—	
グロスDEレシオ	0.72倍	0.65倍	—		0.65倍	—	

➤ キリンホールディングス
IR情報



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/>

➤ キリンホールディングス
Investor's Guide,
Fact Book, 動画



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/guide/>

* 「Investor's Guide」は、投資家様向けにキリングループの経営計画、事業概要や各事業の保有意義などをまとめた資料です。

© Kirin Holdings Company, Limited

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together